

第3回 広域ごみ・汚泥処理施設候補地選定委員会まとめ

- 《開催日》 平成20年1月9日（水）午後1時30分～午後4時00分
《場 所》 豊岡市立図書館2階 視聴覚室
《出席者》 委員：寺嶋均、森住明弘、八村智明、日下部昌男、吉田勲、定元之雄、狩野昇、山田政五郎、井上政信、中田雄久、久保田八千代、西垣好博
足田仁司 （敬称略）
組合：施設整備課職員8名 合計21名
《傍聴者》 9名
《内 容》 … 委員会次第

1 開 会

2 報 告

- (1) 第2回委員会会議概要について (事務局より説明)

- ・ 3箇所 of 訂正あり。
 - ① 1ページ下から14行目「学習会等」を「学習会・企画調整会議」
 - ② 2ページ下から3行目「11月→10月」
 - ③ 4ページ上から13行目「委員会ので→委員会での」
- ・ 傍聴要領について「要綱改正しないで進める。」としたほうがよい。

3 協 議

- (1) 一次・二次評価案の基本的な考え方について
(2) 一次評価項目（案）について
(3) 一次候補地箇所の評価方法（案）について

(事務局より一括説明)

(1) について

質疑内容

Q： 二次評価案「1の①」にある理解度、受容度の違いは何か。また、「2の①の内容等」について地権者の数と併せて意向も評価に入れてはどうか。

A： 二次評価案について、本日は参考程度に留めていただき、一次評価の作業を進めていただきたい。

一次選定候補地が決まった後、委員会が各候補地に対しヒアリング行うこととしている。ヒアリングは、候補地に選定されたことへの理解度、地域振興策も含めた理解についてとすることを考えている。

Q： 候補地の誰がヒアリングを受けるのか。

A： 候補地の地区の区長など区役員の意向を聞く予定である。

結 論

- ・ 「2の①の内容等」については「地区の理解度（受容度）及び予測される地権者の数は、地権者に接触することができないことから、あくまでも不確定なものとなるが、地権者の意向を中心に評価を行う。」に修正する。

(2) について

質疑内容

- Q： 運搬距離、収集効率の評価に入れなくてもよいのか。
- A： 北但全域の運搬距離を考慮して選定範囲を決定しており、また、将来の道路状況も変わることから、一次選定では15km範囲内の距離の違いによる評価はしない考えである。
- Q： 二次選定では、一次選定候補地の優劣を測るものである。現在計画中の北近畿自動車道も考慮してやればよい。運搬距離の評価は他事例でも行っており、簡単に出来ると思うが、どうか。
- A： 時間的な制約もあり、収集運搬効率については、各収集現場から運搬経路を検討し算出する必要があり、膨大な作業となる。一次選定はこれまで協議した項目で評価すべきであると考え。
- Q： 工事条件の評価項目には、どのような数字が出てくるのか。
- A： 概略図を作成し、概算工事費も示すことが出来ると思う。
- Q： 施設を受け入れてくれるかということは大きな問題であるが、地域感情についてはどう評価するのか。
- A： 一次選定時においては、地域感情等の状況は分からない。「住宅への近接状況」などの客観的な評価項目で評価していこうとしている。
- Q： 評価項目は既に決まっているという認識でいいのか。
- A： 委員会の選定は15キロ圏内が前提条件であるが、評価項目内容についての議論は可能である。
- Q： 選定範囲内であっても大きな差ができるのであれば、検討すべきではないか。
- A： 個別の比較をどこまでするのは難しい。例えば現段階で運搬距離に時間を費やすと選定が進まない。15キロ圏内の各一次候補地の輸送距離差による評価は、二次評価で検討できる。また、距離の問題だけ取り上げて議論すると、それ以外の細かな条件についても検討しなくてはならない。
- Q： 「法規制への対処及び許可取得の難易」の設定理由において「解除手続きの難易」とは何か。
- A： 保安林等については、指定されていても施設整備が全く不可能なものではない。整備可能ではあるが、手続きに非常に時間がかかることがある。なお、「砂防指定状況」の「設定理由」欄の中で、「解除」を→「許可」に文言の修正をお願いします。
- Q： 「周辺に配慮すべき事項」の「住宅への近接状況」の設定理由は、交通量

が増加することと併せて、公害の面も考えられると思う。設定理由の文言は修正してはどうか。

Q： 「公害」という表現について、新施設は公害を出さないような施設整備をするので、不適當であるとする。

A： 「騒音」と「臭気」を加えればよいと思う。交通量の問題は関係ないと思うがどうか。

Q： 過去の地元説明において、収集車両等の交通量の増加に対する不安を指摘されてきている。都会と違い田舎の場合は、交通量の少ない道路などでは収集車が増えると大変増えるように感じられている。北但地域の特性として、理解いただきたい。

Q： 鳥獣保護区は建設不可能なのか。

A： 許可は必要となるが、可能である。

Q： 当初より急傾斜地は除外しているが、逆に、角度が緩いということの評価項目に含めてはどうか。

A： 急傾斜地は 10,000 分の 1 の図面上で等高線より判断している為に、細かい角度は読みきれない。

Q： 「農業振興地域のうち特に農業振興上特に支障のある区域」と「学校・幼稚園・その他公共施設等への近接 300m以内」は、すでに除外している。学校等の C 評価の場合の表現を「300mから 500m内にある」としてはどうか。

A： 農振地は施設用地には含まれないが、進入路にかかる場合がある。学校については修正する。

Q： 「進入路工事」の設定理由で、13,900mを 23 で割る理由は。

A： 各候補地の幹線道路までの進入路距離の合計値を 23 で割って平均値を出し、基準となる評価項目として設定する為である。

Q： 活断層 300m以内は如何なる施設も整備できない。これは除外条件ではないか。

A： 原発施設の場合は指摘のとおりであるが、ごみ処理施設は可能である。ただし、活断層よりも離れたほうが望ましい為に、評価を C にしている。

Q： 鳥獣保護区についても C でも整備可能であるが、地域感情、社会条件も考慮する必要がある。例えば、コウノトリの営巣区域はどうするのか。

A： 管理者（豊岡市長）は施設整備する地区について、環境に特化した地域づくりをすると明言している。コウノトリについても問題は無いと考えているが、評価としては低くなると考えられる。

Q： 埋蔵文化財や歴史的建造物についてはどの様に調査したのか。

A： それらについては、文献等の現在得られる情報から調査した。

Q： C 評価は、ある意味で除外する条件ではないか。C があるものは落としてしま

っても良いのではないか。

A： 地区全体が周知の文化財地区であるとは限らないので、Cでも決定的な要素がなければ点数評価するのが事務局の考え方である。

意見等

- ・ 事務局の提案した評価項目は大変細かく、他事例ではここまではやっていない。この評価基準でよいのではないか。
- ・ 選定範囲内であっても場所によって運搬距離には差がつく為、評価項目の中に運搬距離の項目を入れ、23箇所の優劣を比較する必要がある。評価しないと、一次候補地に選ばれた地区から、この件の優劣については必ず聞かれ、評価漏れとの指摘が出る。
- ・ 距離の評価は他の項目と重みを同じでやればよい。重心から3段階で同心円を描き、外側ほど点を低くすればよい。
- ・ 重心から遠い候補地の場合、施設受入れに積極的であったとしても距離の問題で遠慮しないかという懸念がある。しかし、他の項目と同レベルであるから心配ない。
- ・ 評価項目のうち、施設整備の必要条件によっては重く評価してはどうか。

結論

- ・ 評価項目の中に、条件を追加する。基準は、幹線道路からの距離で5km、10km、15kmとし、近い方を優位とする。
- ・ 運搬条件は、すでに絞り込んでいる23箇所のみを評価するものとする。
- ・ その他指摘のあった評価項目の内容・表現を修正し、次回委員会で再度協議する。
- ・ 各項目については重要度をつけることなく、同一のレベル(A・B・C)で評価する。

(3)について

質疑内容

Q： 評価の得点に点差を付けた理由は何か。

A： A・B・Cの得点差を等間隔のまま変えても、全て同じ順位の評価結果になる。そこで、5通りの配点方法や評価の方法により、それぞれの候補地の評価を行い、最終的に各方法で上位1位から3位であった複数の箇所の中から絞り込んでという方法をとった。

Q： 採点方法を変えて評価する意味があるのか。そのような評価を行う合理的な説明が可能なのか。

A： 過去の地元説明会等で、採点の方法によっては順位が変動するのではないかという指摘を受けており、このような方法を検討した。

意見等

- ・ 評価結果には、出来るだけ大きな点数差が出るほうがよい。
- ・ A・B・C、どのランクに重みをつけるのかが問題だ。
- ・ 例えば、経費的な事項に重みをつけるが、住民感情はどうするのかという議論は出てくる。まず一次評価では各評価項目とも同等の条件で絞り込み、二次評価で重要度をつけるのがよいのではないか。
- ・ 例えば、活断層・コウノトリの営巣地・埋蔵文化財が多く確認されている箇所など、除外条件に匹敵すると思える項目が C の候補地は最初から除き、残ったものを機械的に選定してはどうか。重みはつけにくい。
- ・ 活断層も学校の条件も同じ重みにしてはどうか。植生・鳥獣保護区はアセス（生活環境影響調査）を行わなければならない。既存のデータで確認するという注釈が必要だ。
- ・ 点数は等間隔の評価でなければ反対する人達につかれる。
- ・ 等間隔で点数を大きくすれば点差は開くが、結果的に順位は変わらない。
- ・ 事務局の案は過去の経験を生かして検討されていると思う。この方法で妥当ではないか。
- ・ 等間隔での評価と、A の個数、A・B の個数のみで評価してはどうか。
- ・ A・B 個数で評価した場合、事務局案では C を評価していない。C があれば悪い評価として 2 倍する必要があるのではないか。
- ・ 最初に等間隔で評価し、それから重みをつけてはどうか。事務局の提案する実際の評価結果表の案を見ながら議論した方がわかりやすい。
- ・ 評価結果表の案には、実際の地区名が記載されていると聞いている。恣意が働くこともありうる為、最初は地区名を伏せた資料で、内容の妥当性を検討し、その後、地区の実名入りの資料によって再度検討してはどうか。

結論

- ・ 次回の委員会で、各地区の実名無し・入りの評価結果表を参照しながら重みについては、再度検討する。

4 その他

(1) 次回の開催について

意見等

- ・ 今回は、候補地名や平面図を提示して、具体的な絞り込みを行うことになる。自由な意見交換をするために、委員会は非公開で行うべきだと思う。
- ・ 次回の議事録は、地区名を伏せたままで公開せざるを得ないのではないか。

結論

- ・ 委員会規則により第 4 回選定委員会は非公開とする
第 4 回選定委員会
開催日：平成 20 年 1 月 10 日（木）

場 所： 豊岡市立図書館 2階

時 間： 午前9時30分より

※ 非公開とする

5 閉 会